

経済の発展度によって国は「先進国、新興国、発展途上国、未発展国」に分類されます。

インフレ経済やデフレ経済のような経済循環は、先進国でも後進国でも生じますが、バブル経済は先進国及び新興国でしか起こりません。

ここでバブル経済及びバブル経済の崩壊を私なりにメカニズム化すると次の通りです(各研究者の論文を論理付加して作成＝六車流：流通理論)。

- ①経済が「供給(生産) ≤ 需要(消費)のレベル」で発展している段階
- ②経済が発展し「供給(生産) > 需要(消費)のレベル」の供給過剰になる段階
- ③経済が供給過剰になっても、金利を上げる事により需給調整「供給(生産) = 需要(消費)のレベル」となり、単なる景気循環で終わる段階
- ④経済がさらに大きくなり、かつ「供給(生産) > 需要(消費)」の現象が起こり、さらに政策金融(政府の方針や金融機関のリスク回避等によりイレギュラーな低金利)により、「実際金利が理論金利を下回る状況が続くと信用バブルが生じる」段階になる。

すなわち、「供給(生産) > 需要(消費)」の関係にありながら、国策金融機関及び民間金融機関がリスクに見合った十分なる高金利が設定されず、低金利の資金が供給されつづけると、信用バブル(バーチャル経済の巨大化)が实体经济(リアル経済)を大幅に上回る状態が起こり、バブル経済となります。日本の1980年代後半～1991年までの日本バブル経済、アメリカの1997～2000年までのITバブル経済、2005～2008年までの不動産・金融バブル経済、同じEUのバブル経済も同様のメカニズムで発生しました。また、現在の中国の不動産バブル経済も同じ経済現象です。必ず何らかのイレギュラーな金融政策により、リスクに見合った理論賃料を実際金利が下回っている状態でバブル経済は起こっています。

このように、国家としての経済の大規模化の中で、需要を上回る供給現象の発生、それに対する政策的なリスクに見合わない低金利によってバブル経済が発生しています。

では、バブル経済の崩壊後はどうなるのでしょうか。2つのパターンがあります。

- ①**第1のパターン**「バブル経済を循環現象と見て、バブル経済の崩壊後また再発を繰り返す場合」

モダン消費の経済時代は、経済の過熱と意図された低金利の金融政策によりバブルが発生しますが、やがて経済の成長により需要(消費)と供給(生産)が調和し、バブル経済は治まります。しかし経済自体が成長しているため、再度バブル経済は再発します。この現象を「成長経済国家のバブル経済の循環」と言います。経済成長国は、バブル経済が発生する前よりもバブル経済崩壊後の経済資産(経済規模)が上回っていることにより、この差額分(真水)を資源として再度成長経済路線を歩むことになり、またバブル経済が起こる状態になります。

- ②**第2のパターン**「バブル経済の崩壊により、今までの成長経済が終焉する場合」

第1のパターンはモダン消費の経済成長上で起こりますが、バブル経済がモダン消費の終焉時に起こると、成長経済時代から成熟経済時代(低成長かつデフレ経済時代＝名目経済より実質経済の成長が上回る時代)になる現象です。

すなわち、この場合はバブル経済が発生する前よりも、バブル経済の崩壊後の経済格差(経済規模)が下回る事により、再度経済の成長を高める真水としての資源がありませんから、経済の成長は終焉します。しかし、ニューモダン消費の新たなニーズを創出することにより、再度経済成長国家になることができます。

(株)ダイナミックマーケティング社<sup>+</sup>  
代 表 六 車 秀 之